

令和4年度 第2回社会教育委員会議中原市民館専門部会 会議摘録

- 【日 時】 令和4年10月18日（火）10時から11時30分まで
【会 場】 中原市民館第3・4会議室
【出席者】 鈴木部会長、菊地副部会長、中道委員、但野委員、滝沢委員、木村委員、日吉委員
【欠席者】 梶川委員
【事務局】 石川館長、船津係長、小栗係長
【傍聴人】 1人

専門部会の委員8人中7人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

1 開会

2 部会長あいさつ

3 館長あいさつ

4 資料確認

資料1 令和4年度第1回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）

資料2 市民館の管理運営について

資料3 中原市民館社会教育振興事業計画（令和4年度）

資料4 中原区関係資料

資料5 （令和2・3年度）各市民館専門部会の検討テーマについて

5 第1回専門部会の議事録（案）について

6 議事

（1）報告事項

ア 市民館の管理運営について

イ 社会教育振興事業について

ウ その他

（2）協議事項

ア 令和4・5年度の調査審議について

イ その他

7 その他

（1）第3、4回専門部会の日程について

（2）その他

8 閉会

<会議録・質疑応答>

1 開会

事務局（船津係長）

2 部会長あいさつ

鈴木部会長

3 館長あいさつ

事務局（石川館長）

4 資料確認

事務局（船津係長）

5 第1回専門部会の議事録（案）について

事務局（小栗係長） 資料1について説明（了承を得た）

6 議事

（1）報告事項

ア 市民館の管理運営について

事務局（船津係長） 資料2について説明

木村委員 現在の貸館の定員はどうなっているか。

事務局（船津係長） 原則、通常どおりとなっている。

中道委員 体育室に設置されているCDプレイヤーが2台とも不具合があるので、確認して欲しい。

事務局（船津係長） 確認する。

中道委員 サークル連絡会で話題になることが多いのだが、体育室の使用時間帯について、とどろきアリーナのように、午後の時間帯を2分割できないものか。

事務局（船津係長） 使用時間帯については条例に規定されている事項のため、条例改正が必要になる。また、使用時間帯が変更になった場合には、利用料金についても併せて変更する必要がある。市民館の管理運営については、現在「市民館・図書館の管理・運営の考え方」などで議論がされているところなので、そのような中で整理されていくべきものと考えている。

イ 社会教育振興事業について

事務局（小栗係長） 資料3について説明

木村委員 今年度から始まった新規事業について教えて欲しい。

事務局（小栗係長） 社会教育振興事業は、教育委員会の要綱に基づき実施しているが、市民館の管理運営の議論に併せ、年齢に応じたライフステージ学習の考えを取り入れた。体系が変更されたため、変更部分の事業は今年度からの開始となる。

木村委員 新規事業があるということは、無くなった事業もあるということか。

事務局（小栗係長） 体系は変更されたが、枠組みを変えたものであることから、従来から実施していた事業を取りやめたということはない。

木村委員 年齢に応じた学習ということは、昔に戻ったということか。

事務局（小栗係長） 過去の学習体系を了知していないが、年齢に応じたライフステージ学習という考え方で進めると聞いている。

ウ その他

木村委員 前回欠席委員に、前回会議に先立ち、教育委員会の職員から受けた説明内容を伝えてほしいと依頼したが、どのようになっているか。

事務局（小栗係長） 前回欠席委員には、説明をする機会が無く、また今回の専門部会の開催にあたり、教育委員会から各委員に資料の配布を依頼されているので、この場を借りて簡単に説明をさせていただきたい。教育委員会の資料によると、この間の「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」に関する議論の一環で実施したパブリックコメントの結果、521件の意見があったこと、また、前回の会議に先立ち各委員へ説明のあった、「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」については、「今後どのような管理・運営の手法が、その実現のために適しているのか」「生涯学習推進の拠点として最も市民ニーズに沿った市民館・図書館であるためにどうしたらよいか」という視点から策定し、手続きを経て確定に至った（案が取れた）と聞いている。

（２）協議事項

ア 令和4・5年度の調査審議について

鈴木部会長 この会議は2年の任期で行うことになる。審議にあたり、テーマを決定する必要がある。皆さんが今思っていることを語っていただきたいと思っているが、どうか。

日吉委員 前回の摘録によると、木村委員は指定管理者制度への移行の不安をおっしゃっているが、どのような点に不安を感じておられるのか、教えていただけないか。

木村委員 私の前職は市民館職員で、最後は市民館長で退職している。自分たちのやってきた事、自分たちだけでなく諸先輩方がやってきた事があり、川崎には50年以上にわたる市民館の歴史があるので、それをいきなり指定管理という形にシフトしてしまうということについて、納得できない自分がいる。必要性が十分に考えられて、明らかにそちらの方が良いということがあれば、全く構わないし、市民の中できちんと議論が積み上げられて来た結果であれば、何も口を挟むものではない。私自身も川崎市民だが、市民ぐるみで討議をするようなことは無かったので

はないか、部分的にはワークショップなどを実施しているようだが、川崎市の社会教育の歴史からみると、どんな事も、例えば地域教育会議が誕生した経緯についても、地区懇談会で話し合いを重ねて地域教育会議という組織の誕生に至っている。PTAなども含めて全て、職員と一緒に考えて、悩んで、何か良い方向に行かないかと取り組んできた歴史がある。大事な問題であり、単に予算を削減するために指定管理にして良いのかという忸怩たる思いがある。前回の会議で発言した「悔しい」という思いは、そういう意味である。全否定ということではなく、良くなっていくならば、指定管理者制度に移行しても構わないのだが、決定プロセスの中に、話し合いがきちんとされてきているのだろうかという疑問があり、パブリックコメントを実施したという資料があるが、すべての意見を反映できる訳ではないと思うし、一定期間市民の意見を聞く機会を設け、多少修正すれば確定というのはどうなのかという思いがある。この専門部会で2年間をかけて何を審議していくのかという時に、いずれ指定管理者制度に移行していくことを無しにして、議論することはできない。

日吉委員 今後指定管理者制度に移行していくことを踏まえて、この2年間の議論を行いたいということか。

木村委員 そうだ。

鈴木部会長 私も指定管理者制度を十分理解している訳ではないが、指定管理者制度自体の話をしていると時間が足りないのではないかな。今は、この2年間で何をやっていこうか、どういうことをしてこうかという事を、語り合いたいと思っている。

菊地副部会長 4月から学校長として赴任したが、地域が温かいと感じている。同じ中学校区の4校の校長が毎月集まって議論を重ねているが、このような取り組みは今まで経験が無く、とても機能していると感じている。地域の情報交換や地域の方との関わり、子どもを小・中学校を見越して考えることができる。子どもにとってPTAはロールモデルなので、地域の方が学校に関わってくださるのは、とても有難いと感じている。市民館の活動も、地域の子どもたちが大人になった時に、地域に戻って活動できるような取り組みに繋がると良いと思う。

鈴木部会長 同じ中学校区の校長が集まって議論するという取り組みは、良いと思う。

菊地副部会長 その他にも、わくわくプラザとも毎月話し合いの機会を持っている。地域教育会議の皆さんも積極的に関わってくださっていて、学校と地域を結び付けてくださっているのも、地域が温かくて協力的と感じている。

鈴木部会長 自分が所属している団体からの発言でも構わないので、発言をいただきたい。

滝沢委員 以前に「敷居の低い市民館をめざして」というテーマで議論したこともある。

それと関連するかも知れないが、市民館と地域との連携を議題にしても良いと思った。市民館で実施している事業が知られていない。各団体や区民へ市民館をアピールしても良いのではないか。市民館の利用者が限られているように感じるので、市民館の存在を知ってもらう事も必要なのではないか。

鈴木部会長 子ども会議に関わっているが、子ども会議のチラシを大量に印刷して、各学校へ配布したが、チラシを見て応募した参加者は1名のみだった。広報の難しさを感じた。先ほど来の指定管理者制度への移行についても、市民の関心を引いていないのではないかと感じる。

中道委員 サークル活動では、コロナ禍で会員が減少している。サークル祭に出展するサークルも以前は30団体以上あったのが、20団体程度まで落ち込んでいる。所属サークルでも会員数が30名程度から10名程度にまで減少している。どのようにしたら活動をPRできるのかが懸案で、SNSも利用するなど工夫している。

但野委員 中原市民館は立地条件がとても良いので、利用者が多い。ただ、市民館事業という観点からすると、サークル等にしても、集客が難しい状況がある。武蔵小杉駅周辺は居住者も多いし、活動したい人も多くいるようにも思うが、他方で市民館自体は大きくないので、体育室にしても予約を取るのが困難な状況になっている。立地の利便性と予約の上限にギャップがあるように感じる。

菊地委員 今の時代は子どもはとても忙しい。子どもはどうしても、保護者のコミュニティに影響を受けるので、そのことを考えて、10年後を見据えて、子育て世代の方に市民館を利用してもらう事を考えても良いのではないか。親御さんと一緒に市民館を利用した子どもたちが、市民館を肌で感じもらう。そのような視点でテーマを考えても良いのではないかと思う。

事務局（船津係長） テーマを決めるにあたって、資料5について補足をさせていただきたい。テーマの決め方には、特徴がある。例えば、幸市民館と麻生市民館は、現に抱えている市民館の課題をどう解決できるかという点に着目してテーマ化している事例となっている。宮前市民館と多摩市民館は、提言型になると思う。市民館の認知度の向上という大きなテーマに対して議論をして、全体的な提言をするというのが特徴となっている。もう1つ、アイデア提言型というものもある。教育文化会館、中原市民館、高津市民館などがそうだが、アイデアを出して、それに対して実践を加えるという手法である。資料5の裏面には、過去の中原市民館の専門部会の検討テーマが掲載されているので、テーマについては、大きく分ければ、先ほどの3パターンあると思うので、参考に方向性を決めていただければと思う。

鈴木部会長 時間もあるので、今回の議論はこの程度にして、テーマは、それぞれ資料など

を参考に考えておいてもらいたいと思う。

木村委員 審議は、専門部会委員の方ですべきとは思いますが、参考までに、出席職員の皆さんにとって、こうなったら良いなとか、これまでの中原市民館での経験を踏まえて、感じていることを教えていただきたい。専門部会委員だけが単独で考えるのではなく、館長以下の職員のみなさんは、地域の方々の意見を吸い上げて、地域の現状などを踏まえた上で、様々な市民館運営をしているのだから、現状で出来ている、出来ていないに関わらず、大切にしてきたこと、大切にしたいと思っていることなど、職員の思いも知りたい。

日吉委員 中原市民館の場合は、専門部会では、地域の課題をみつけて解決に向けた話し合いをしてきたとされていて、タワーマンション居住者と地域の人、市民館を利用する人と利用しない人に分かれていて、全員の意見を反映することは難しいことは承知しているが、区民意見を反映できる仕組みがあると良いと思う。シニアの方はシニアの方など、横のつながりが無いので、つながりを作るのがとても難しい地域ではあるのだが、つながりができる機会があると良いと思う。

事務局（小栗係長） 日吉委員の発言に共感するところがある。中原市民館に従事していて、サークル連絡会、文化協会、PTA、地域教育会議、寺子屋、子ども未来フェスタなど、それぞれと関わりを持たせていただいた。とても素晴らしい活動をされているとされている。各団体の中には親和性があるものもあるが、全く別に活動していることも多い。それぞれの団体が連携できたならば、より良い中原区になるのではないかと考えて、以前に、新中原市民館の10周年の際、市民館を借り切って、イベントを実施したことがある。各団体に出展いただき、賑わいとともに、横のつながりを作るのを企図したのだが、多くの来館者はあったが、1日限りのイベントだったこともあり、横のつながりを作るまでには至らなかったのが残念であった。

イ その他

特になし

7 その他

(1) 第3、4回専門部会の日程について

事務局（小栗係長） 次回日程についてお諮りしたい。資料の「令和4年度第3、4回中原市民館専門部会の開催候補日について」に出欠の可否を記入し、10月31日までに事務局まで提出して欲しい。日程が決まったら、お知らせする。

(2) その他

事務局（石川館長） 本日、各社の新聞報道で、旧統一教会が公共施設を使っているという

記事が出た。中原市民館は9件だった。利用の可否は条例に基づき判断している。

8 閉会